

平成30年度

若年勤労者の自殺を考える シンポジウム

参加費
無料
事前予約制
定員180名

若年勤労者×自殺対策×産業メンタルヘルス

平成31年 **2月22日(金)**

(開場12:30) **13:00 ~ 16:30**

講師

インターネットを活用した企業の
ストレス対策の可能性

大野 裕

一般社団法人認知行動療法研修開発センター 理事長
ストレスマネジメントネットワーク株式会社 代表



ファシリテーター

大塚 俊弘

川崎市子ども未来局 児童家庭支援・虐待対策室
担当部長
(健康福祉局障害保健福祉部 精神保健福祉センター
担当部長 兼務)



心の健康を保つための
食事と生活習慣

功刀 浩

国立精神・神経医療研究センター 神経研究所疾病研究第三部 部長
気分障害先端治療センター長



ファシリテーター

田中 克俊

北里大学大学院医療系研究科 産業精神保健学教授



職場での過重労働・メンタルヘルス対策：
国内外の動向からの示唆

伊藤 弘人

独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
過労死等防止調査研究センター長



司会・総合討論 座長

樋口 輝彦

一般社団法人日本うつ病センター理事長
国立精神・神経医療研究センター名誉理事長



多くの方のご参加をお待ちしております

一般社団法人日本うつ病センター（以下JDCJ）では、2018年2月に「東京都地域自殺対策強化事業」として、東京都との共催で「若年勤労者の自殺対策のシンポジウム」を開催するなど、若年勤労者の自殺対策に取り組んでおります。

東京都では、若年勤労者の自殺割合が全国でも高く、自殺予防に対する取り組みが急務となっています。

若年の勤労者が日常で過ごす時間は、「企業」での勤務時間が最も多い反面、企業内では自殺に対してスティグマがあり、正面からの対策が取りづらく、さらに若年者は精神活動が活発なため特有のメンタルヘルス状況があります。

そこで、若年層に特化した支援の方法を確立し普及する必要があると我々は考えています。

JDCでは、本年度も精神科医、メンタルヘルスに詳しい産業医など、現場での経験が豊かな講師を招き、シンポジウムを開催いたします。

会場 AP市ヶ谷



アクセス

JR 総武線東京メトロ有楽町線
南北線・都営新宿線
市ヶ谷駅下車 市ヶ谷駅 徒歩1分

登壇者プロフィール (抜粋)

大野 裕 (おおの ゆたか)

精神科医、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター顧問、一般社団法人 認知行動療法研修開発センター理事長
1978年慶應義塾大学医学部卒業
コーネル大学医学部、ペンシルバニア大学医学部への留学を経て、慶應義塾大学教授 (保健管理センター) を務める
2011年6月独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センターセンター長に就任、現在顧問。
認知療法の日本における第一人者で、日本認知療法・認知行動療法学会理事長。
<著書> 『こころが晴れるノート』(創元社)、『はじめての認知療法』(講談社現代新書)、『マンガでわかりやすいうつ病の認知行動療法』など

功刀 浩 (くぬぎ ひろし)

国立精神・神経医療研究センター 神経研究所疾病研究第三部 部長、気分障害先端治療センター長
1986年東京大学医学部卒業
1994年医学博士 (東京大学)、精神保健指定医
1994年ロンドン大学精神医学研究所にて研究
1998年帝京大学医学部精神科学教室講師
2002年現職
<著書> 『心の病を治す 食事・運動・睡眠の整え方』(2019年 翔泳社)、『こころに効く精神栄養学』(2016年 女子栄養大学出版)、『精神疾患の脳科学講義』(2012年 金剛出版)、『図解 やさしくわかる統合失調症』(2012年 ナツメ社) など

伊藤 弘人 (いとう ひろと)

独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター長 (労働者健康安全機構 産業保健アドバイザー)
1991年東京大学医学系研究科博士課程を修了後、日本医科大学医療管理学教室で病院評価方法の開発に従事。
厚生労働省の複数の国立研究所を経て大臣官房厚生科学課に勤務した後に、2006年国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 精神保健研究所 (現名称) の研究部長に着任。NCNPがリードする国立高度専門医療研究センターとの共同プロジェクトの事務局を担う。山梨大学客員教授、WHO テクニカルアドバイザーやAPECメンタルヘルスプロジェクト共同議長。働き方改革の関係で、2017年9月から現職。
<著書> 医療評価、真興交易医書出版部、2003年、精神科医療のストラテジー、医学書院、2002年、クリニカルパス、精神科臨床サービス、2005年、循環器疾患とうつ、南山堂、2012年

大塚 俊弘 (おおつか としひろ)

川崎市こども未来局児童家庭支援・虐待対策室 担当部長
(健康福祉局障害保健福祉部 精神保健福祉センター 担当部長 兼務)
1987年長崎大学医学部卒業
1993年長崎大学大学院博士課程修了
長崎大学医学部附属病院、五島中央病院、佐世保市立総合病院等を経て、1999年より長崎県に入職、精神保健福祉センター所長、保健福祉部健康政策課課長、県立保健所長、長崎こども・女性・障害者支援センター所長、国立精神・神経医療研究センター 上級専門職を経て2018年より現職
<著書> 『学生のための精神医学』(太田保之編) 医歯薬出版、2002、『よくわかる自殺対策』(本橋豊編) ぎょうせい、2015、『精神保健学 精神保健の課題と支援 (精神保健福祉士養成セミナー2)』(精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編) へるす出版、2017 など

田中 克俊 (たなか かつとし)

北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学教授
1990年産業医科大学医学部卒業。
(株) 東芝本社産業医、昭和大学精神神経学教室講師、
北里大学大学院医療系研究科、産業精神保健学准教授を経て現職。
日本産業精神保健学会常任理事、日本ストレス学会理事、日本産業ストレス学会理事、日本うつ病学会評議員。
<著書> 『保健、医療、福祉、教育にいかす 簡易型認知行動療法実践マニュアル』大野 裕・田中克俊 ぎょうせい出版 東京 2017、『働く人の睡眠と健康 あなたの睡眠足りてますか? ~睡眠不足と睡眠障害~』田ヶ谷浩邦・田中克俊 (監修) アスパクリエイト 東京 2012 など

樋口 輝彦 (ひぐち てるひこ)

一般社団法人日本うつ病センター理事長
国立精神・神経医療研究センター名誉理事長
1972年東京大学医学部医学科卒業
1994年昭和大学藤が丘病院精神神経科教授
2015年国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 理事長・総長
2016年4月~現職
<著書> 医師と患者・家族をつなぐうつ病のABC~早期発見・早期治療のために (編集) (医薬ジャーナル社 2017)、うつ病臨床のこんな疑問に答える一脳科学からのアプローチ (監修) (Depression Frontier) (医薬ジャーナル社 2017)、うつ病への疑問に答えるうつ病医療のさらなる前進に向けて (日本評論社 2016)、今日の精神疾患治療指針 第2版 (医学書院 2016)、精神科のくすりハンドブック 第2版 (総合医学社 2016) など

一般社団法人 日本うつ病センター (JDC)

一般開業医・プライマリーケアおよび精神科・心療内科以外の診療科医で、うつ病および関連の疾患に関心を抱く医師・コメディカルスタッフへの情報提供を行っています。また、精神疾患の中でも、しばしば遭遇する「うつ病」や他の関連する疾患について、心理的障害に悩む一般市民の方々に適切なアドバイス・支援の方法を伝えることを活動の目的とし「六番町メンタルクリニック」を開設しています。
JDCのより詳しい情報は、ホームページ (<https://www.jcptd.jp/>) をご覧ください。

お申し込み方法

下記の連絡先まで、メール又はFAX・ハガキでお申し込み下さい。

お問い合わせ

一般社団法人 日本うつ病センター (JDC)
〒102-0085 東京都千代田区六番町1-7 K-PLAZA 2階
電話：03-6256-8411 FAX：03-3239-0028 メール：attend@jcptd.jp
(月~金 10:00-18:00 土・日・祭日はお休み)

「若年勤労者の自殺を考える」シンポジウム 申込書 FAX：03-3239-0028

ふりがな		電話番号	
氏名		F A X	
ご所属			
ご連絡先	<input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 ※連絡先が勤務先の場合、必ず会社名まで明記してください。		
住所	〒		
メール			

参加申し込みにてご提供いただきました個人情報、本シンポジウムの受付と統計・分析および関連イベントのご案内以外には使用いたしません。
お願い：お申込み頂いた控えを、当日必ずお持ちください。 ※当日の席は自由席です。